

告 広

世代別3人の女性不動産鑑定士が「わたしたちの幸せ」を叶える自分らしい働き方について語る



杉浦 綾子氏（写真中央）日本不動産鑑定士協会連合会副会長
信託銀行入社後に資格取得。鑑定事務所等を経て、現在は株式会社杉浦総合鑑定を設立。様々な委員会事業を立ち上げ、不動産鑑定業界を牽引。
高橋 智美氏（写真右）不動産鑑定士
ハウスメーカーの営業職を経て不動産鑑定士へ。子育てをしながら、公的評価や委員会活動にも精力的に参加する二児の母。
荻原 万葉氏（写真左）不動産鑑定士
法律事務所を経て、資格取得後に日本不動産研究所へ。入社3年目の不動産鑑定士。

ワークライフバランスを求め方こそ不動産鑑定士の魅力を知ってほしい



「通しやすいことがとても助かっています。また、大手の看板を後ろ盾にせずとも、信頼を得てご依頼いただけるのが「不動産鑑定士」の資格ならではの強みと感じております。」
荻原氏 私は鑑定会社に所属しておりますが、仕事は個人によるところが大きく、スケジュール管理さえ出来ていれば、基本的には自由に時間休や有休取得が可能です。さらに不動産鑑定およびそれに付随する業務は全国にあり、個人の価値観やライフステージに合わせて勤務地が選択できることから、時間も場所も自由度が高い職種であると思います。出張で全国各地へ行くことも魅力に感じています。
杉浦氏 その意味でも充実したワーク

ライフバランスといえるかもしれないですね。出張先では業務後に観光地も回れますし、銘産品を買って帰ることも楽しみの一つでした。

（Appraisal）＋A（Advisor）」等の新しい業容分野にも進出してほしいと思います。

高橋氏 私の仕事は地価公示等の定期的な公的評価が主軸で、その他公共団体や民間からご依頼いただく不動産鑑定評価が不定期にあります。それら鑑定に係る業務以外にも、宅地建物取引士の法定講習講師や不動産関係のセミナー講演、市の空き家対策協議会委員等、多くの業務に携わっております。今後も新たな知識を学び、様々な人と交流し、不動産鑑定士としての資格を活かしながら働いていきたいです。

荻原氏 鑑定評価書を見たことをきっかけに鑑定士を目指したため、鑑定評価業務が中心というイメージがありました。実際にはコンサル業務から再開発、マンション建替や海外不動産評価等、想像以上に業務の幅が広く、デスクワークだけでなくフィールドワークも含め、様々な経験ができることを知りました。これからの新しいことを学び続けるという志を忘れず、次代の鑑定士になればと思います。



高橋氏 不動産情報以外にも、常に変動する社会的要因（法改正や人口動態等）や経済的要因（金利動向や株価等）等色々な情報を得て学ぶことが必要です。得た知識を使い、鑑定以外の

目指しました。
荻原氏 不動産鑑定という仕事を正直聞いたこともありませんでしたが、前職の法律事務所の業務の中で鑑定評価書を取得する機会があり、そこで初めて不動産鑑定士という職業を知りました。面白そうな仕事だと思いつつも、周りに不動産鑑定士がおらず、未知の業界であったということもあり、自分に合わなければ他の道もあるという気持ちで挑戦したことがきっかけです。今ではこの業界に踏み込んで良かったと感じています。

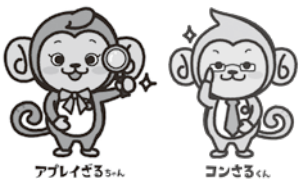
不動産鑑定士ならではのワークライフバランスや働きやすさとは
杉浦氏 会社組織と独立開業の場合とでは違いがあるかもしれませんが、ただ、不動産鑑定業務は全国どこでも、自ら時間管理をして業務を行うことができる有効な資格であると思います。性別を問わず、子育てや介護などの家族に関することももちろん、趣味や社会活動などのプライベートも含め、

ワークライフバランスを保ちやすい職種になってきています。この恩恵は地方部における鑑定士ほど享受しているとの話もよく伺います。
また、不動産・コンサルティング一般における専門性を担保するパスポートでもあると思います。実際、少ない数の方が鑑定以外の業務において、その考え方や理論を応用して活躍しています。そして今は多くの方から、第二の人生を見据え、不動産鑑定業務への帰還を含めた様々な相談をいただいているという状況です。
高橋氏 私は小規模事業者ということもあり、自分の裁量でスケジュールを決められ、小学生の子供二人の学校行事や親の通院の手伝い等に予定を融

人生をフレキシブルにする国家資格
不動産鑑定士という選択を。



公益社団法人
日本不動産鑑定士協会連合会
Japan Association of Real Estate Appraisers



日本不動産鑑定士協会連合会
公認キャラクター
不動産鑑定士の認知を目的として各地のイベントに登場しています。

不動産鑑定士とは、どんな職業であるのか、どんな場面で求められているのか、詳細は、本会ホームページにてご案内しています。
<https://www.fudousan-kanteishi.or.jp/kanteishi/>

